

平成州紙



おりおりの記

故郷が教えてくれたもの

東京海上アセットマネジメント
代表取締役社長

大場 昭義

東海道新幹線で出張する際に自然と思い出に浸る時がある。浜名湖が目に入り始める時だ。まだ幼いころに慣れ親しんだ懐かしい風景が目にとまると、この瞬間だけは仕事のことは空白になる。もともと淡水湖だった浜名湖はウナギの養殖で有名だが、15世紀の大地震で遠州灘との境が決壊し今では海水湖になっている。幼いころは潮干狩りや海水浴など格好の遊び場であり、高校時代には生徒全員が浜名湖の橋から飛び込むという伝統の武者修行もあった思い出深いところだ。

遠州浜松は三河、駿府と並んで徳川家康公ゆかりの地とされる。浜松市のゆるキャラが「出世大名 家康くん」とされる所以であり、2015年のゆるキャラグランプリで第一位となっている。昨年は家康公ゆかりのこの地域で家康公薨去400年祭が開催された。家康公が礎を築いた徳川時代は「世界史上例を見ない平和国家」で「究極の循環型社会」、また「文化の成熟期」でもあった。その知恵を未来の日本、そして世界へ発信するという趣旨の事業である。故郷で活躍する高校の先輩や後輩がこの事業の運営に注力した。

徳川ゆかりの地は明治期に入り一変する。徳川時代の価値観を色濃く有した歴史ゆえに、皮肉にも明治維新後の新政府からは疎遠にされたとい

う。こうした中でこの地に生まれたのが、他人に頼ることなく自ら切り開くという情熱と気概を持った多くの起業家だった。起業した中に

は、その後グローバル企業に発展した事例も多い。トヨタの源流となる自動織機を発明し実業家となった豊田佐吉、山葉寅楠は日本で初めてオルガンの製造に成功しヤマハの源流をつくり、鈴木式織機製作所を創業した鈴木道雄はスズキの礎を築いた。ホンダを創業した本田宗一郎、ノーベル物理学賞で話題となったニュートリノの観測装置カムオカンデの製造に貢献した浜松ホトニクスなど、わが国初となる起業が今日まで続いている。

高校時代からよく言われた「君は何ができるか」との問いかけには一瞬戸惑うが、自立精神に満ちたこの言葉が独特の風土をつくり独自性ある企業を育んできた。何をもって世に貢献できるか、と自問自答する中で挑戦する人材が育ったのかもしれない。故郷はその大切さを思い出させてくれる。

